



## かりの光昭 活動ニュース

6月10日 No.14

住所：いわき市石森2丁目2-11 携帯：090-7564-3253

E-mail [karino@karino-m.jp](mailto:karino@karino-m.jp) HP <http://karino-m.jp>

### 「放医研をいわき市に誘致する会」総会・講演会

6月9日いわき市文化センターにおいて「放射能医学総合研究所（略称：放医研）をいわき市に誘致する会」の総会・講演会が開催されました。

「誘致する会」の小野栄重会長が「いわきに安心して住み続けるために科学的なデータが必要であり、除染や健康管理を国として行うこと。これらに対応した研究機関が放医研であり、その誘致はいわき市民の願いである。この気持ちを皆と共有したい」と挨拶をしました。次に、いわき医師会の

長谷川徳男会長が「放医研の誘致は①いわき市は双葉郡避難者が多くおり、海や山があり最適な設置場所である②勤務医不足の解消に役立つ③農林・水産業の放射能対策に貢献する④子供達の放射線防護のサポートができる」と訴えました。続いて、放医研研究基盤センター長の取越正己氏による「放医研の意義と役割」についての講演がありました。放医研は昭和32年に科学技術省所管の国立研究所として設立され、設立の目的は「放射線による人への影響を研究する」もので、千葉県に研究所があり、研究員は約800人。

主な講演内容は

(1) 放医研の果たすべき役割について

①放射線の人体への影響②放射線による人体への障害予防、診断および治療③放射線の医学利用④これらの分野の研究者や技術者等の専門家の育成の四点である。

(2) 研究内容について

①低線量放射線による人や環境への影響。具体的には放射線防護対策②高線量被爆から人を守る。具体的には緊急被ばく医療③炭素線によるがん治療。具体的には重粒子線がん治療④放射線で病気を診断する。具体的にはPET, MRI検査等。

(3) 東電福島第一原発事故への対応等



小野栄重会長が誘致にむけあいさつ

### 複数の研究者グループの連携が求められています

「放医研」をいわき市に誘致するために、市民の総意として多くの署名を集め、国や県に強く要望を行っていくことの要請がありました。

福島県は「県民健康管理」で①基本調査+県民健康管理ファイル(1/20 現在:回収率 20.8%)②甲状腺検査③健康診査一般健診項目+白血球分画等を行っていますが、いわきに安心して住み続けるための対策として十分とはいえません。

放医研や衛生学・免疫学等の医学系研究者や放射線実地調査を行っている放射線研究者との連携がなされれば、市民へより質の高い放射線防護対策がはかられます。